

宇宙とUFO・国際シンポジウムin羽咋 / 講演内容

本文章は、ロキッチュ氏のメモに基づいて構成されたものであり、講演者がこの通り講演した訳ではありません。



B.S. Maccabee

アメリカ大学教授
工学博士
(軍事光学解析、
レーザー光線、
衛星写真解析)
FUFOR理事長

UFO墜落とガルフブリース事件

UFOはエンターテインメントではありません。基本的なレベルの問題として扱っていき必要があります。

昨今のUFO現象は、すでに、科学問題というより社会問題の傾向をうかがわせています。

UFO現象＝エンターテインメントの図式は、マスコミによってなされた部分が多いでしょう。

大切なのは、曇や色の掛かっているメカネで、UFO現象を見つめて行かないことはなりません。

世界が、目に見えてい

る物だけで

はなく、実

は、それ以

外の要素も

存在するの

だという点



以「知」で回収されたUFO破片

て置く必要があり

(その後、スライドによる各種UFOコ

ンタクト事件の紹介)

UFO事件として、近年有名になったものに、ロズウェルUFO墜落事件とい

うのがあります。

は、ジャンボがレイキャビクからアンカレッジへ飛行中、30分以上、当該飛行機の回りを平行移動もしくは旋回していました。

このUFOと同じものと思われる事例として、ハワイで撮影されたUFO写真や、金沢で撮影されたUFOビデオがあります。これらの写真は私が分析しました。

また、英国で起こっているUFO関連現象に、アグリグラフ(日本で言う所のミステリーサークル)があります。

これら各事件について、我々は間違った知識を教えられてきました。このため、我々は今になって、Past-shock(後からくる衝撃・驚き)を経験しているのです。



M.L. Popovitch

ソビエト空軍大尉
元女性宇宙飛行士
SACFON代表
全ソ婦人科学者会議議長

宇宙開発とUFO・アゼルバイジャン墜落事件

UFO問題を考えることは、人類の新しい発展に必要なことです。

私は、宇宙飛行士としてのきびしい訓練を受けました。(幾つかの訓練内容が紹介された)

その後、テストパイロットとしての任務が終わわり、国家から雪男(イエティ)の研究を指示されました。UFOとの出会いは、この雪男の研究中に、雪男とUFOに何らかの関係が有るらしいという疑いを持ち始めたからです。

宇宙人クリルの供述記録とよばれる文書によると、雪男は、人類の進化におけるミッシングリンクを解く鍵だという。

(ロキッチュ注)

ソ連におけるUFO事件については、ジエグリ博士という人物が、色々なUFO事件の研究をおこなっています。

有名事件の一つに、ペトロザボロツクでのクラゲ状UFO事件というものがあります。

この事件では、UFOから発せられた「水のような光り」によって、UFOに面した窓のガラスに、小さな穴が開きました。

また、UFOに遭遇した軍のパイロットが後に死亡するという事件も起こりました。

私がおもうに、UFOと雪男とポルターガイスト現象には、何らかの関係があるように思えます。

ソ連には、UFOと遭遇した人のために、コンタクティー協会というものがあ

ります。

これは、系統的な情報収集をおこない、3つの方針に基づき、データが整理されます。すなわち、

UFOの行動を観察。

これを分類し分析。

さらに、その目的を明らかにする。

この結果、幾つかの文明が、地球を訪れている事がわかりました。

UFOに対する戦略に重要な点は、どういう地域へ多く飛来するか調べる事です。

その場所が、どういう地形、気候なのか、生物学的な特徴は何なのか、調べる必要があります。

たとえば、ツングースの大爆発等の後、我々は付近の鉱物を調査しました。また、着陸後には、UFOを作っていると思われる金属があるかもしれません。

コンタクティーと呼ばれる人々の研究も重要です。

どのような人物が、コンタクティーとして選ばれるのか。情報を受け取るレベル



この時公開された宇宙人写真
現在は一般的になっている

最後に、もっとも新しいUFO墜落事件は、南アフリカとザンビアの付近で墜落したUFOに搭乗していたエイリアンです。また、UFOの中には、茶色い液体に浸った地球人も発見され、ノルウェイ語に反応したそうです。



回転場（共振場）は、
清家理論に通じる所がある
（写真は清家新一氏）

はどの程度か。双方のコンタクトはあるのか、等々。UFOそのものの研究も進めなければなりません。UFO飛行理論を説明する新しい「場」の理論が現れました。自然界にある「場」には、静電場、電磁場、重力場のほかに、回転場もしくは共振場ともいうべきものがあるようです。これについては、ウラジミール・パライスキーという学者が研究を進めています。また、円盤状の物体を高速回転させると、その周囲にある物体の質量に変化が見られました。どうも、重力場が減少したように見れるのです。



江 晃榮

台湾文化大学教授

張 開基

台湾UFO学会研究委員

中国の歴史に見るUFO

中国の古い伝承では、中国人の祖先は天子族の孫に当たるといふものがあります。また、古代中国で発達した、「易」にみられる原理は、「陰」と「陽」の組み合わせで、色々な物を表現します。ここで、DNAという遺伝を司る分子は、4種類のアミノ酸の組み合わせで、64種類のタンパク質を合成できますが、これは、易でいう64卦と一致します。古代中国の人々は、いかにしてこのような知識を得たのでしょうか。日本にも、遮光器土偶という、宇宙人を型どつたような出土品がありますが、中国にも、遺跡のなかから発掘された祭事器には、UFOのような形をしたものがあります。古代中国で使われた文字のうち、「天」に相当するものは、元々は、地上の人のうえに人を重ねた形です。これは何を意味するのでしょうか。このように、古代中国の遺物からは、UFOや宇宙人と接触したような痕跡や記録が数多く見つかります。（その後、古代中国の天文日誌から、UFO現象と思われる記事を抜粋したスライドが、延々1時間15分も続いた。さすが、何をするにも大陸のスケールの中国人である。）



永延 幹男

水産庁遠洋水産研究所・
南大洋生物資源研究室長
農学博士

開洋丸が遭遇した巨大UFO

開洋丸が遭遇したUFO現象については、私には科学者の立場から、事実のみ列挙しようと思います。なぜなら、我々が遭遇した不思議な現象を説明するだけの言葉が思いつかないからです。データという物は、観測者が事実を解釈したものであり、そこには、観測者の主観が少なからず入り込みます。あれがUFO現象かどうかについては、私は専門家ではありませんので、はつきりとは断定できません。私の専門は海洋生物学です。しかし、長年海と空を眺めている私も、色々な現象を目撃しましたが、あんな不思議な現象は後にも先にもあれが唯一の事件でした。（と、博士は前置きしてから、南極大陸とウルグアイの間の公海状で目撃したUFO現象について、日経サイエンスに発表した記述の通り説明された。博士の発表で感銘を受けたのは、事実とデータとは同じ物ではないという主張である。確かにその通りである。さらに付け加えるならば、事実一つじやが、真実や真理は複数存在する。なぜなら、これらも事実から人間が抽出したデータだからである。）

宇宙とUFO・国際シンポジウムin羽咋 / 講演内容

宇宙とUFO・国際シンポジウムin羽咋 / 講演内容



C.S.Vonkeviczky
元国連本部広報担当官
ICUFON代表
全米航空宇宙学会会員
退役リガリ帝国陸軍少佐

星間戦争の開星・星間平和を望んで

私は国連にUFO問題を、軍事的側面から初めて持ち込んだ者です。UFO事件には、必ず軍事的側面が存在し、我々はこの事実を認識しなければなりません。例えば、有名なマンテル大尉事件では、軍当局はこの事件を覆い隠そうと工作しました。

SDI計画などは、別名スターウオーズ計画とも呼ばれるものであり、これなど、宇宙戦争への準備に他なりません。

私は、ジュネーブやマルタで東西首脳が会談を行った際、これらUFO問題について話し合ったと考えます。ぜひ、そういった情報の公開を望みます。

これらのエイリアン問題は、このようなシンポジウムを通じて、全世界に広めて行かなくてはなりません。

UFOと軍との間には、絶えず衝突があります。例えば、2月24、25において、合衆国とUFO間に、軍事的衝突がありました。(ロサンゼルス上空に飛来したUFO事件。この時、15機程度を相手に千四百三〇発の高射砲弾が打たれたというロキッチュ注)



フォンケヴィチ氏より示された宇宙文字の例
前方後円墳の様なパターンも見受けられる



V.G. Ajaja

ソユーズUFO研究センター所長
元海洋学研究所所長代理

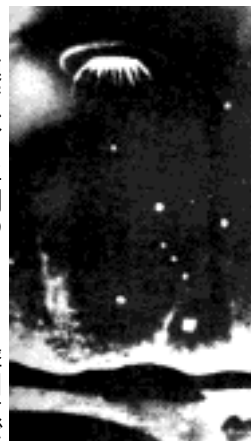
ソ連におけるUFO事件

ソ連におけるUFO事件で有名なものに、ペトロザボロツクにおけるUFO事件があります。

このUFOは、目撃者の話だと、「光の水」をだし、UFOに面した窓ガラスに、小石で開けたような穴があいたそうです。「光の水」というのはよく分かりませんが、目撃者はそう感じたと言います。(これによく似た報告が、ガルフブリー

これは第二次世界大戦のさなかだった、戦争終結後、マツカーサー元帥は、つぎに来るべき戦争は、地球上の国と国の間ではなく、星と星との間の戦争だとも発言しています。ペンタゴンにおけるUFO戦略に対する分析では、彼らの行動は、次のように分類されます。地球上のエネルギー資源を調べる。さらに、これを技術利用する。軍事力の調査。環境や天体の征服を試みる。USA、ソ連の政策を調査する。(ここから、UFO関係の資料と、実際に発生した、軍事衝突の事例についてスライドによる紹介があった。)

結論として、UFO問題は、国連での委員会を設立し、考えて行かなくてはなりません。



ペトザボロツクに現れたという
クラゲ状UFOのスケッチ

ズ事件でもあった。光なんだが、何か実体がある水のようなものであるという。また、話は少し違うが、魔のバーミューダ海域での遭難者からの無線連絡記録には、機体が光る水に突っ込んでいくようにうだという記述がある。空間の性質が変化すると、見た目には、光る水のように映るのかもしれない。(ロキッチュ注)

ソ連では、年間のUFO目撃回数が4000回から5000回あり、そのうちの8000回程度が、着陸事件だったようです。

エイリアンの正体はどのようなものかよく分かっているといわれています。タンパク質やアミノ酸で出来ているとは考えにくい。目撃者の話によると、彼らは壁を通り抜ける事ができるし、しかし、椅子などを持ち上げる事もまだできるようです。体もほとんど変化しているようです。(このあたりの内容は、通訳のせい、意味が分からないものが多い。なにしろ、アジャジャ博士は大変早口で、通訳の人から再三待ったが掛かっておった。)

UFOはどのようなメカニズムで飛行・変形するのでしょうか。話が少し複雑ですが、オーラを写すキルリアン写真装置というものがあります。あるいは、遺失物の捜索を行う、ダウジングロッドという器具があります。これらは、思考と言うものを、物質に反映できる装置と考えられます。精神とUFOのかかわり合いについて

面白い例があります。10mほどのUFOが着陸した事件のとき、これを、たまたま黄色いフィルムが半分しかつたカメラで撮影したそうなんです。その結果、フィルムのかがつていて、部分のUFOは、UFOの姿ではなく、女性の顔が映っていたそうです。つまり、人によってUFOが見えたり見えなかつたりするのは、UFOが人間の心理に影響を与える物体であるということです。UFO現象のいくつかは、このように物質化した精神が引き起こしているものもあるようです。死んだ人々の精神が、大気のように地球を取り巻き、あたかも「思考圏」、「精神圏」ともいうべきものを形成しているようです。

コンタクトイベントのうち、その会話はテレパシーがほとんどで、かつ、その地方の言葉で行われる例が多いです。誘拐事件もあります。ソ連で行方不明となる人々は、年間9万1千人ほどですが、そのうち5千人はUFOに誘拐されたもののようです。へこんな統計を、どうやって調べたのか、ワシにはわからない・ロキッチュウ）UFOと遭遇した時の安全確保も重要です。また、UFOと古代遺跡の関係、UFOからの慰留品（エンジェルヘアー等）なども調べる必要があります。UFOがどこからくるのか、明らかにする必要があります。これには、多くの仮説があり、

宇宙人説
バミューダ海域や日本海からの飛来説
ヒマラヤや高い山中からやってくる説
多次元宇宙からやってくる説
その他

これらの仮説について、我々は偏見を持たずに検討していかなくてはなりません。科学というのは、問題-仮説-証明のサイクルで発展すべきものだからです。また、UFO問題を考えるには、ディストインフレーション（偽情報）に

ついても、気をつける必要があります。これは、民衆がUFOを見つめる正しい方向を、故意に逸らすために流される性質のものだからです。色々な科学調査の結果、地球には我々には見えていなかった、さまざまな世界があるようです。例えば、この大気中の赤外線や紫外線写真によると、肉眼では見られなかった、色々な現象が報告されています。このような領域に、我々の知らない、何か生命体らしきものがあるようです。このように、UFO問題は、色々な観点から、科学的に考えていかななくてはなりません。



矢追 純一

UFOジャーナリスト
元NTVディレクター

いま地球維新前夜！

私がUFOに関わったのは、日本TVに入社して、最初の特番を企画したところのことです。このころ、世の中は公害問題や石油危機で、暗い話ばかりでした。それなら、いっそ大空に目を向けて見よう。UFOみたいなものが、夢があつていいんじゃないか。そんな感じでUFOに関わり始めた私ですが、色々調べていく過程で、だんだんこの問題がとんでもない事であるのが判ってきました。私は、UFOを考えることは、2つのメリットがあると思います。

1つは、宇宙的視野から、地球の環境を考えられる事。もう一つは、生き方の反省として、UFO問題を考えられる事。

例えば、地球環境の破壊は、ここへ来て、みなさんの知るところとなりましたが、実はこれはもう何年も前から、科学者の間では警告されてきたことなのです。（地球温暖化の話は、73年にはワシモ耳にいれていた。ロキッチュウ注）

これまで、どうして騒がれることがなかったのか。それは、その後、騒がれると困る人々がいたからです。石油を売りたい、車を売りたい、土地を切り開きたいといった人々の利益に対して、これらの警告は明らかに反発しているからです。

これらはUFO問題についても同様です。私は、宇宙人がいるの、UFOがあるの、といった事より、こういう情報の隠れい、誰によってなされるのか、誰の為にされるのか、大変興味を引かれる所です。ここで、インプリンティング（刷り込み）の実例を、騙し絵を使って説明。公開されているUFO情報には、色々な偽情報が、本当の情報に紛れて流されています。しかし、ここへきて、UFO情報の扱いが変わってきたのも事実です。

地球環境は、これからどんどん悪化していくでしょう。こんな時、我々はどうすべきか。

私は、「自分だけ生き抜くには、どうすればよいか」という点につきると思います。結局、精神革命というものは、個人の内面から沸き上がるものでないと、本当のものではないと思うからです。今、我々は、自分が生き残るには、何をすべきか、地球に対して何が出来るのか、じっくり考える時です。こうして、我々は「地球維新」を成し遂げていかなければならないのです。

宇宙とUFO・国際シンポジウムin羽咋 / 講演内容

